

2017年(平成29年)1月30日(月) NO 106号

# K-PURO NEWS

## 【事業所】

◆	社名	株式会社 ケイプロ	<a href="http://www.k-puro.co.jp">http://www.k-puro.co.jp</a>
◆	商号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆	本社	埼玉県蕨市中央 1-7-1 シティタワー蕨	TEL 048-446-9445
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

## 【業務内容】



機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
防犯カメラ設置	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い



## 【加盟団体】

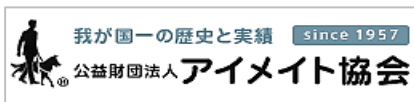


RID2770	川口モーニングロータリークラブ	<a href="http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/">http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/</a>
NPO 法人	さいたま起業家協議会	<a href="http://www.saitama-kk.org/">http://www.saitama-kk.org/</a>
公益社団法人	千葉東法人会	<a href="http://www.chibahojin.jp/">http://www.chibahojin.jp/</a>
一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	<a href="http://www.rinri-chiba.org/">http://www.rinri-chiba.org/</a>
公益財団法人	モラロジー研究所	<a href="http://www.moralogy.jp/">http://www.moralogy.jp/</a>

## 【応援団体・企業】



越谷レイクタウン内科  
Koshigaya-LakeTown-Clinic



## ごあいさつ



今年の干支は丁酉(ひのと・とり)です。

干の『丁』は、「火の弟」という意味や「釘」を形取ったもので安定するという意味があります。

支の『酉』は、収穫した作物から酒を抽出する、果実が極限まで実る成熟した状態を表しています。

したがって、『丁酉』は、安定した実りある年であることを示しています。

過去を省みると、大塩平八郎の乱をはじめ地方からの反乱が複数起こっています。

火にまつわる大災害も多く、明歴の大火や三原山の大噴火などたびたび発生しています。

永仁の徳政令や貨幣法制定等、法律や財政の大規模改革も多かったようです。

国内では、小池新党の躍進や秋以降の衆議院選挙、また海外では、トランプ大統領の就任にはじまり各国リーダーの交代など、様々な世界情勢の要因に日本も振り回されそうです。

そして、『申酉騒ぐ株相場』と言われるよう株式も大きく乱高下しそうなような気配です。

しかし私たちは、様々な出来事に決して一喜一憂することなく、しっかりと地に足を付け、お客様にご満足いただける仕事を提供できるよう日々努力していきたいと考えます。 木戸 良樹

## 今月の良い話 「あの笑顔をもう一度」

私の親しい方のお母さまが 100 歳で亡くなりました。  
最後の 3 年間は、ある大病院で過ごされていましたが、認知症が進み、  
はっきり口にできるのは朝晩の挨拶と

「ありがとう」

という言葉くらいでした。  
このお祖母さまは病院のスタッフが病室に入ってくるたびに、  
屈託のない笑顔で  
「ありがとう」  
と挨拶して頭を下げます。  
最初は気に留めなかったスタッフも、  
しばらくするとお祖母さまの笑顔を見ないではいられなくなりました。



朝出勤すると、机に荷物を置く前にまずお祖母さまの病室を訪れて声を掛けます。  
「おはよう、ありがとう」  
という声を聞いて一日の仕事をスタートすることが日課になっていったのです。

そして、夕方、退勤する時もお祖母さまから笑顔のエネルギーをもらい、  
機嫌よく帰途につくようになりました。  
それだけに、お祖母さまが天寿を全うした時、スタッフは皆、  
深い悲しみを味わいました。

ある医師は

「朝夕、お祖母さまの病室に足を運んだので、  
お祖母さまの笑顔を見ないと一日の区切りがつかないくらいでした。  
疲れて帰宅しても、家族の前では機嫌よくしようと心を切り替える習慣が身についたのは、  
お祖母さまと 3 年間接していたおかげです。  
お祖母さまは私にとってとても大きな存在でした。」

と話していたそうです。

お祖母さまは何か特別なことをやったわけではありません。  
病室を訪れる人に

「ありがとう」  
と笑顔で応じていただけです。  
それだけでも、周囲の人は毎日会わずにはいられなくなってしまいました。  
いつも上機嫌であることは、周囲にここまで力を与えるのです。

国際コミュニオン学会名誉会長 鈴木 秀子

月刊到知 2017 年 2 月号掲載

## 今月の良い話 「感謝報恩が永続への道」

昨今の日本社会を省みた場合、「感謝の心」が今ほど薄れている時代はないと感じざるを得ません。高級車に乗るだけの金銭的余裕があるにもかかわらず、子どもの給食費を払わない親に象徴されるように、感謝の念がみじんも感じられない「してもらってあたりまえ」「してもらって当然」が蔓延しています。しかし、こうした人たちを非難する私たちでさえも、はたしてどれだけその恩恵に気づいていると言えるでしょうか。



そもそも私たち人間は、決して一人の力で生きることはできません。毎日口にするお米一粒にしても、いまだ人の力だけではつくり得ず、太陽・水・空気……といった「自然の働き」なくして一日たりとも生き長らえることはできません。

また、今日の私たちが享受している便利で快適な生活も、多くの先人・先輩が積み重ねてきた努力があればこそであり、身近な人を含めて、計り知れない多くの恩恵を受けて、生かされているのです。

しかしながら私たちは、こうした恩恵を知らずに過ごし、知ったとしても徐々に忘れて、時には「不足の力」を感じてしまうものなのです。

会社が順調に成長を遂げているときには、周りや自分の環境に対して感謝できても、いざ業績が悪くなったとたんに「あいつが悪い」「景気のせいだ」と責任転換するように、私たちは常に不平不満のマイナスの心が前面に出てきやすいのです。

「どんな小さなことでも感謝できるように」ということについては、「あたりまえ」の感覚を「感謝」の心へ振り替えていけるように、とも言い換えられます。

この振り替えを可能にする力、それは「気づく力」であると言えます。

常日ごろ「あたりまえ」という固定観念のフィルターを通して物事を見ていると、数多くの恩恵が見えません。その見えない恩恵を知り、感じる力が、気づく力です。

例えば、毎朝毎夕一人で静かに自分を振り返る時間を持つ、「ありがたい」ことに気づいたときは手帳に書き込むなどは、実際に優良企業のトップが実践している一例です。

なお感謝には必ず「報恩」の心が裏付けとして備わることが大切です。

それは人間の呼吸と同じく、感謝という息を吸ったら、報恩という息を吐くがごとく、両者は一対一、表裏一体の関係です。

こうした姿勢は、常に恩人に対する報恩を意識することで、良いことがあっても恩人のおかげである、悪いことが起きたときは自らに反省するという謙虚な心を引き出すことにもつながっていきます。経営者は、社内では最高の地位であり、望むと望まざるに関わらず絶対的な地位に立ちます。したがって、周囲に戒める人がいなければ、いつしか心中に慢心や油断が芽生え、気がつかないうちに成長していくものです。

それが元になって経営姿勢や判断にゆがみを生み、会社を衰えさせることにつながります。

こうした慢心や油断を絶つためにも、常に感謝、報恩の心を欠かさないことが肝要です。

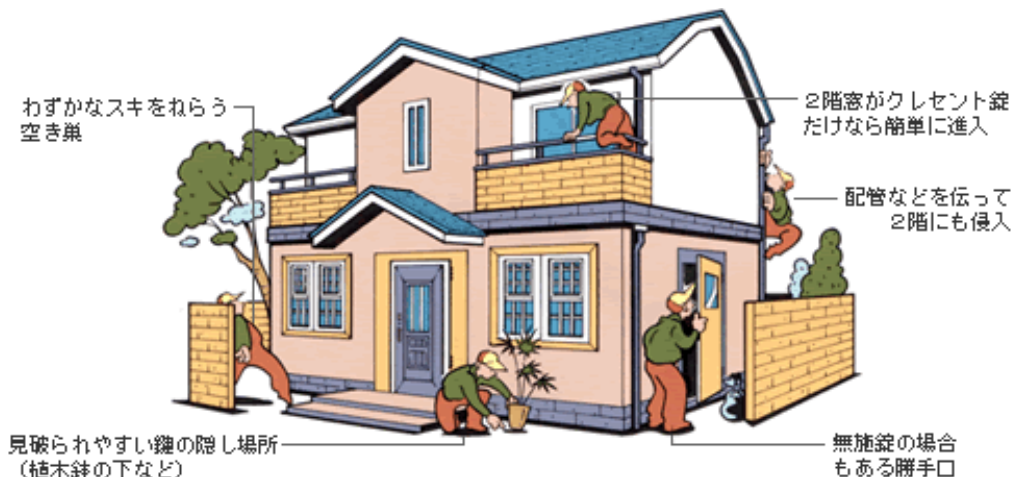
廣池は述べています。

「知らず識(し)らずの間に自己中心となっていることを常に反省していかねば、知らず識らずの間に道より外れてしまう。このことに気づかねば、つまらぬ年月を経るだけになってしまう」と。

モラロジービジネスクラブ 学習資料 NO5

## 事件ファイル NO106 泥棒の侵入口

住宅侵入の手口で最も多いのは、窓ガラス破りです。  
1階の窓や玄関まわりだけでなく、トイレや浴室など高い位置にある窓も狙われがち。  
2階や3階でも、雨どいや配管を伝わって登ったり、電柱や樹木、ガレージなどを足場にして乗り移る場合があります。  
「まさか、こんなところからは入らないだろう」という考えは、プロの泥棒には通用しないのです。



## プロ太の小話集 NO106 『4人目』

4人目を身ごもっている妻が新聞を手に青い顔をして震えながらこう言うんだ・・・。

メリー「あなた！大変よ・・・。」  
ケン「どうしたんだい。そんな顔をして・・・。」  
メリー「生まれてくる子の4人に1人は中国人って書いてある！」



今月のK-PURO ニュースいかがでしたか？  
弊社では毎年お寺で厄除け祈禱を行います。今年は1月29日でした。これは弊社に災いが来ないようにということと、弊社のお客様にも災いが起こらないで欲しいという気持ちから続けています。  
ご祈禱の途中から、住職が筒状のものを持ち、参列者一人ひとりの頭と肩、そして背中の中三ヶ所をなぞり力を授けてくれます。この筒状のものは『撰法華経』といい、住職たちそれぞれが大荒行を行っている時に書かれたお経が入っているそうです。  
通常は三ヶ所をなぞり隣の方へ移動していくのですが、昨日は脚の悪いご婦人がいらっしゃいました。住職はこのご婦人に対して、頭、肩、背中の中三ヶ所につづき、両脚もなぞられていました。何気ないその動作のなかに、ご住職の温かい心遣いを感じ、その所作に自然と目頭が熱くなります。このようなちょっとした素敵な心遣い、自然に振る舞えるよう見習いたいと思います。

注:プロ太とは、写真のK-PURO番犬です (体長10メートル・体重1トン・無敵無敗)